



INAX MUSEUMS

INAXライブミュージアム

NEWS LETTER

特集

陶楽工房へ、ようこそ

vol. **27** | 季刊 2013 **春**





特集

ようこそ
陶楽工房へ、

一生懸命絵付けをする小さな子、ウェディングボードをつくる二人…。
陶楽工房のスタッフは、夢中になってものづくりをする姿を、いつも見守っています。
「微笑ましいエピソードには事欠きません」
「ほっこりします」「一生懸命つくっている姿を見るのは、幸せです」。
体験された方から「ありがとう」のメールや手紙をいただくことも。
陶楽工房には、やさしい時間が流れています。

INAXライブミュージアムは、東日本大震災の復興を支援しています。

01 特集 陶楽工房へ、ようこそ

LIVE REPORT

開催報告

06 大竹伸朗「焼憶」展

07 世界のタイル博物館コレクション
「ミントンのタイル—千変万化の彩り」展
in 東京・渋谷ヒカリエ

企画展「日本の白い壁—石灰がつくり出す多様な世界」
関連ワークショップ第二弾
漆喰塗り体験&石灰料理試食会

LIVE SCHEDULE

これからの催し

08 建築のボランティアスタッフ 募集します
“どろ田”のための「シャワー設備と更衣室づくり」

09 ゴールデンウィーク特別イベント
みんなでシャボン玉を飛ばそう

企画展 集落が育てる設計図 アフリカ・インドネシアの住まい

CONTENTS

INAXライブミュージアム
NEWS LETTER

vol.27 季刊 春
2013

表紙写真

国内外で幅広く活躍する美術家、大竹伸朗さんの展覧会「焼憶」展が好評開催中です。大竹さんのカラージュ作品や写真を焼き付けたタイル一枚一枚に見入ったり、黄金のトイレに感動したり。迫力ある立体作品は、光るどろだんご体験にやってきました2人を大いに楽しませたようです。

(2013.3.2)

撮影：加藤弘一

常滑から※

26

さん かく あん
三角庵



常滑市内の旧市街地に「三角庵」という屋号のうどん屋さんがある。
屋号の「三角」は、うどんの形などからではなく、店の敷地の形からきているそうだ。三方を道に囲われた店の形が三角形なので、三角庵となったようだ。市民からは、「三角うどん」という愛称で親しまれている。
二等辺三角形の鋭角の頂点のところに入口があり、店内に入ると奥に広くなっている。創業から100年近く、麵一筋。塩も小麦粉もこだわって、香川から取り寄せている。
店内には、こだわりの個性的なメニューが所狭しと壁に貼られている。黄金鍋（煮込みうどん）、黄金餅（お金持ち）お餅入りの味噌煮込みうどん、百歳鍋（具たくさん）の煮込みうどんを食べて百歳まで長生きなどのうどんメニューに加え、丼物も充実している。そのボリュームと濃厚な味噌味は、長きにわたって、やきもの街で体力をつかう職人たちの昼夜の腹を満たしてきた。
常滑のやきもの文化の違った面を堪能するのにぜひ一度、のれんをくぐってみてください。

小関雅裕（ものづくり工房工房長）

※INAX創業の地・常滑の人、風景、できごとなどを、INAXライブミュージアムのスタッフが伝えます。

想いを届ける

ある日の陶楽工房。大学時代の友人という5人の女性がやって来ました。席に着くと、お揃いのサンタの帽子と赤いエプロンを身に付けて、ビデオカメラをセッティング。結婚を控えた友だちのためにメッセージボードをつくります。さらに、その制作風景を録画して、結婚式で流してもらおうという計画です。

「余興としても楽しんでもらえらるし、私たちがやる気が出る」。こう話すのは、筒井なぎささん。そのねらいは見事の中。新郎新婦を驚かせ、結婚式を大いに盛り上げました。友人の喜ぶ顔を楽しみにしながら仲間で作ったメッセージボード。その想いはしっかり届いたようです。

光るどろだんごづくりで子どもたちと何回もライブミュージアムを訪れていた宮本智恵さん。「父の誕生日のお祝い、何にしようと考えていたらピンときました」。お父さんを驚かせようと、誕生日のメッセージボードづくりで家族でいざ陶楽工房へ。「70歳だから7本のローソク」。これは8歳の尊くんのアイデア。色もみんなで相談して決めました。

世界に一つだけのプレゼントを受け取ったお父様、「一番ハートのある贈り物だね、うれしかった」と大喜び。フェイスペインクに載せたら「いい贈り物だね」と反響もあって、宮本さんも大満足。「手づくりのものって、すごく喜んでもらえるんだと改めて感じました」。

「ありがとう」「おめでとー」「お幸せに」。その人を想いながら一生懸命につくる。それが陶楽工房のものづくりです。

自分だけの「カワイイ」をつくりたい！

ふらっとやって来た女性たち。「かわいい！これやってみたい」。見ているのはモザイクアートの本の数々。陶楽工房でもリピーターの多いメニューです。

ものをつくるのが大好きという石川靖子さんもその一人。「季節ごとにタイルの色や、デコレーションの素材がちがうので、その都度行きたくありません」。その石川さんをモザイクアートに誘ったのが友人の土屋寛峰さん。「モザイクアートは女同士で行くのが楽しいです。彼女と私、お互いの個性が作品に出て、全然ちがうけれど、それぞれカワイイ。ほめ合って盛り上がりやすい」と、楽しそう。

色を選べる、デコ素材で季節感が楽しめる、作業に没頭できる、完成後は部屋に飾れる、世界にひとつのオリジナル！これが、欲張りな女性たちを夢中にさせる理由。「色の選び方、並べ方で、個性を出せるのがモザイクアート。表現の幅は広いですね。初めて体験された方は、必ずもう一度挑戦したいと言われます」とスタッフ。

人の心をときめかせる、きれいでかわいいもの。それを自分の手でつくり出せる幸せが、陶楽工房にはあるのです。



お揃いの衣装で決めた筒井なぎささんとお友だち。陶楽工房でも、ひとときわ目立っていました。



宮本智恵さんのお宅にお邪魔しました。「一生残る贈り物です」とメッセージボードを大切にしてお父様、千原三峯さんを囲んで、宮本さんご一家。



目にも鮮やかなデコレーション素材。一番人気は、白やピンクの花。パステル系の色が多い春は女性が、涼しげな色合いの素材が多くなる夏は男性の体験者も増える傾向に。夏の思い出と一緒に作るカップルも、意外に多いとか。



木之下祐子さんも陶楽工房のリピーターの一人。今までにつくったたくさん作品を見せてくれました。「夢中でものをつくった後は、すごくフレッシュできるし、プレゼントするのも楽しいです」。



石川靖子さん(右)と土屋寛峰さん。「何度も来ているのでスタッフの方とも顔なじみです！」



ものづくりの 楽しさを体感

陶楽工房を埋め尽くした女子大生。
愛知県下の美術館や、産業、工芸などを見学する研修旅行で常滑を訪れた、名古屋学芸大学短期大学部現代総合学科デザインモデルの学生たちです。今日は「プロトイレ絵付け」で、陶器の絵付けを体験しました。

花や緑、猫や小鳥、雨や木が育っているイメージなど、思い思いの絵を描き始めます。

「デザイン科の学生さんだけあって、筆づかいが上手」と、スタッフも感心。友だちと途中経過を見せ合いながら、集中すること1時間半。絵付けが完了した作品は、この後、窯で焼かれ1か月後にできあがりです。

「こんなトイレがあったらいいなと思って描きました。完成が楽しみ」。ものづくりの楽しさ、十分に味わっていただけたようです。

みんなでつくる 地域とつながる

「陶楽工房のみなさん、お世話になります」と、実行委員のあいさつで始まったのは、常滑西小学校6年生の卒業記念制作。この春卒業の65名が力を合わせてつくるモザイク壁画です。

生徒たちは、卒業制作のために前もって「常滑らしさ」について話し合い、テーマを決め、それを元に各グループでデザイン画を作成。「土管」「セントレア」「招き猫」…。それを携え、いよいよモザイクアートの制作に取り組みます。
「青でも、淡い青、濃い青いろいろあるので、組み合わせると立体感が出ます」。「ここはスタイルの置き方を変えると動きが出るよ」。スタッフが各グループを回ってアドバイス。

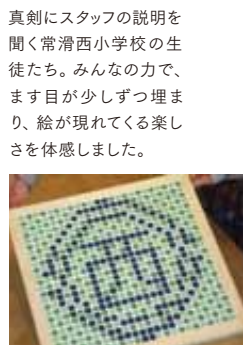
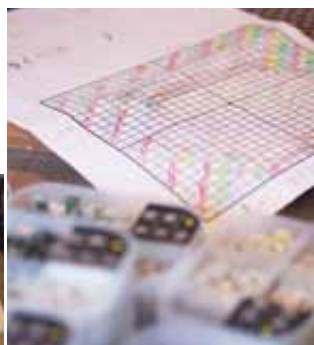
楽しく作業を終えた生徒たち。「思ったよりうまくできた」と満足げな感想も。仕上がった16組の作品は、小学校で一つの壁画となつて、卒業していく生徒たちを見送つたのでした。

この春、陶楽工房の白い壁に、スタッフ手づくりの、鮮やかなモザイク壁画が飾られました。

大切な人の思い出や記念日、うれしい顔や驚く顔、楽しい光景を思い浮かべながら、ものづくりを楽しむみなさんとの新しい出会いを、お待ちしております。



「曲線だから描くのはむずかしいけど、楽しい!」「時間がたつのを忘れちゃう」と、名古屋学芸大学短期大学部のみなさん。「集中力がすごいですね」と、スタッフも感心していました。



真剣にスタッフの説明を聞く常滑西小学校の生徒たち。みんなの力で、まます目が少しずつ埋まり、絵が現れてくる楽しさを体感しました。

校舎に飾られた平成24年度の卒業制作



陶楽工房のスタッフが作ったモザイクアート(上)。青の濃淡は、海や星、見る人のイメージを自由に広げます。